

質の高い大学教育推進プログラム 実施状況報告書

大 学 等 名	立命館アジア太平洋大学		
取 組 名 称	初年次教育の新モデル構築		
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組		
取 組 期 間	平成20年度～平成22年度（3年間）		
取 組 学 部 等	全学	取組担当者	近藤祐一
W e b サ イ ト	http://www.apu.ac.jp/academic/modules/gp/index.php?content_id=3&lang=japanese		
取 組 の 概 要	<p>本事業の全体の目的は、初年次教育の総合化と体系化をはかり、本学の教育目的であるグローバル社会で通用する人材を養成することに資することである。具体的には、オリエンテーション精選・体系化、新たな初年次教育セミナー「APU入門」の設置等を通して、大学生活への円滑な移行と適応、大学の基本理念及び歴史の理解と大学への帰属意識の形成、アカデミックスキルの獲得と主体的・能動的な学習スタイルへの学びの転換に取り組む。</p>		

1. 取組の実施状況等

①取組の実施状況 【1ページ以内】

(1) 取組の実施体制について

本取組は学長・副学長のリーダーシップの下、各学部及び各部署の適切な連携をはかり、全学的な体制で取り組んでいる。このため大学の意思決定機関である大学運営会議の下に新たに「初年次教育全学委員会」を設置し、各学部・各部の有機的な連携をはかりながら取組を推進している。

さらに、APUにおける教学課題を踏まえ教育開発及び学修支援について日常的に調査・企画などの教学支援を行うための組織として2008年度より「教育開発・学修支援センター」を設置し、学生実態や教学課題に合わせた初年次教育の展開に取り組んでいる。

(2) 取組の実施計画について

本取組の各年次の実施計画は以下のとおりである。

<平成20(2008)年度>

- ・初年次教育全学委員会の立ち上げ
- ・平成21(2009)年度の新入生オリエンテーションの改革案の具体化
- ・平成21(2009)年度以降の初年次教育セミナー「APU入門」新設具体化
- ・初年次教育用の新テキスト開発への着手
- ・ピアリーダー育成プログラム、ピアリーダーマニュアルの開発
- ・教員用トレーニングプログラム、教員用マニュアルの開発
- ・初年度の取組の検証・評価 など

<平成21(2009)年度>

- ・新入生オリエンテーションの改革実施
- ・初年次教育セミナー「APU入門」の開講
- ・初年次教育用の新テキスト開発完了及び使用開始
- ・ピアリーダー育成プログラムの実施、ピアリーダーマニュアルの完成・使用
- ・教員用トレーニングプログラムの実施、教員用マニュアルの完成・使用
- ・初年次教育プログラムの検証・評価 など

<平成22(2010)年度>

- ・初年次教育用テキストの改善検討と具体化
- ・ピアリーダー育成プログラムの実施
- ・教員用トレーニングプログラムの実施
- ・海外先進大学の初年次教育担当者を招聘した研修会の実施
- ・初年次教育プログラムの検証・評価
- ・取組期間終了後の継続実施方針の具体化 など

また、本取組に参加する教職員及び学生数は以下のとおりである。

- ・ 教員数：約50人
- ・ 職員数：約30人
- ・ 学生数：新入生約1400人、ピアリーダー学生約150人

(3) 社会への情報提供活動について

本取組の社会への情報提供活動については、本学のWebサイトを活用するとともに、初年次教育学会やフォーラム等において取組内容や成果について積極的な発信を行っている。

②取組の成果 【1ページ以内】

本取組における中心的な存在となる「APU 入門」では、APU の設立理念及び創立の歴史を学び APU 生としての自覚を持ち、APU で学び、生活するための仕組みを理解し、多文化環境で経験できる事柄を学習機会として捉え、自分の目標に合わせて自らが置かれた環境をリソースとして活用できるようになることを目指している。さらに、主体的・能動的な学修スタイルと問題解決能力を身につけ、APU での学びを将来の進路目標に繋げ、高い学修意欲を維持し続けることをねらいとしており、2009 年春 Semester から 2010 年秋 Semester までの受講者数は 250 名を超えている。

2009・2010 年度の受講者に対して行ったアンケートでは、日本語基準・英語基準の両方のクラスにおいて、4 段階評価でともに 3 以上となった項目には以下のような項目があった。

- ・ 他人の意見に耳を傾けることができるようになった
- ・ 異文化の友達ができた
- ・ APU に入学してよかった
- ・ APU の一員としての意識がある
- ・ APU の学生であることに誇りを持つようになった
- ・ 学習意欲がわいた
- ・ やる気が出てきた

この結果は、「APU 入門」の受講を通して、受講生が異文化理解やコミュニケーションの基礎を構築するとともに、APU 生としてのアイデンティティを醸成し、大学生活に対して意欲を高めていることを示している。

また、本取組において重点的に取り組んだ新入生オリエンテーション改革においては、オリエンテーションを新入生が大学生活を送る上で必要な情報を伝達する期間としてではなく、多様な学生が円滑に大学生活に馴染むための「移行」期間の最初の取り組みとして位置付け、以下の内容を取り入れたオリエンテーションを 2009 年秋 Semester より実施した。

- ・ 学生の視点を取り入れた情報の精選
- ・ 新入生参加型ガイダンスの実施
- ・ 新入生が気軽に立ち寄り、大学生活についての質問ができる場の提供
- ・ 新入生同士が交流できる場の提供

その結果、以下の表に示すとおり、オリエンテーション改革前の 2008 年度と比較して、2009 年秋・2010 年春 Semester の新入生のオリエンテーションにおける履修登録及び学生生活ガイダンスの理解度と役立ち度が飛躍的に上昇した。

オリエンテーションにおける新入生のガイダンスの理解度及び役立ち度の変化

時期	履修登録ガイダンス		学生生活ガイダンス	
	ガイダンス内容 の理解度	ガイダンス内容 の役立ち度	ガイダンス内容 の理解度	ガイダンス内容 の役立ち度
2008 年度	28.8%	62.7%	28.8%	62.7%
2009 年秋 Semester	61.5%	93.4%	65.6%	87.1%
2010 年春 Semester	66.0%	75.0%	83.0%	76.0%

③評価及び改善・充実への取組 【1 ページ以内】

本取組は学長・副学長のリーダーシップの下、各学部及び各部署の適切な連携をはかり、全学的な体制で取り組んでいる。このため大学の意思決定機関である大学運営会議の下に新たに「初年次教育全学委員会」を設置し、各学部・各部の有機的な連携をはかりながら取組を推進している。

上記の取組の中で、新入生ワークショップや異文化体験プログラム、留学に関する取組については教学部に責任体制を置き、新入生オリエンテーションや学生生活全般の適応支援については学生部に責任体制を置いている。また、キャリア形成や職業選択に関する課題については就職部に責任体制を置き、入学前教育については入学部と教学部が連携して取り組む。父母（保護者）への対応については父母担当部署に責任体制を置いている。これらの取り組みを個別に行うのではなく、初年次教育全学委員会の中で共有しながら組織的に推進している。

さらに、APU における教学課題を踏まえ教育開発及び学修支援について日常的に調査・企画などの教学支援を行うための組織として 2008 年度より設置した「教育開発・学修支援センター」に初年次教育担当教員を 2009 年 4 月より 1 名、9 月より 1 名を配置し、APU の学生実態や教学課題に合わせた初年次教育の展開に取り組んでいる。

本取組の成果については、毎年度、初年次教育全学委員会において報告を行い、各プログラムの評価及び改善活動を行った。初年次教育全学委員会には、教学担当副学長を委員長として、各学部・部門から初年次教育担当の教職員が出席し、学生アンケート、GPA、TOEFL スコアなどをもとに各プログラムにおける成果を評価し、次年度に向けた改善点や重点課題を検討・決定した。

④ 財政支援期間終了後の取組 【1ページ以内】

本取組については、財政支援期間終了後についても、財政支援期間中と同様の取組内容と規模にて実施していく。そのために、補助金によって雇用した初年次教育に従事する教職員も継続雇用し、これまでの本取組を運営していくとともに、本取組をさらに改善していくための初年次教育に関する調査・研究業務等を行っていく。

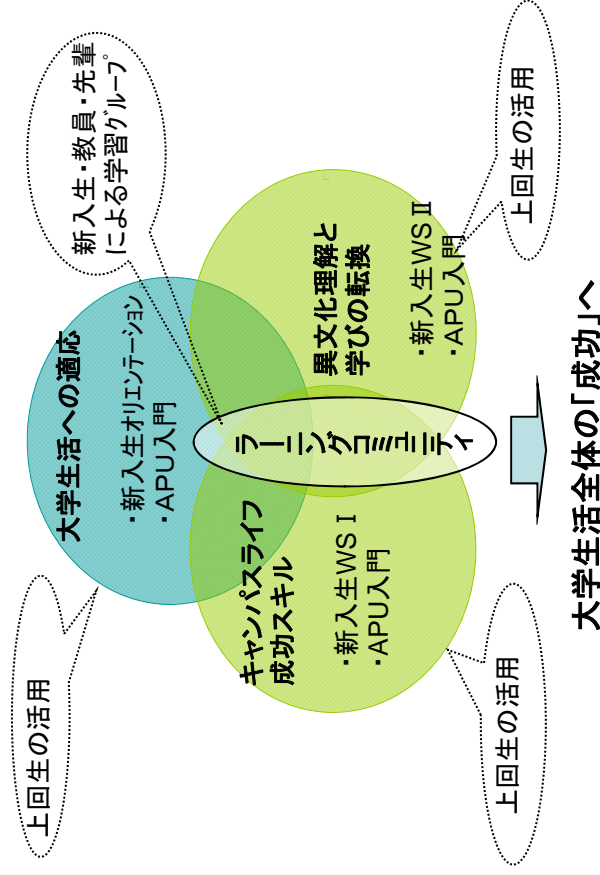
本学における初年次教育に関して日常的に企画・運営・評価活動を行う教育開発・学修支援センターも財政支援期間中と同様の役割を担っていき、各学部・各部の有機的な連携をはかりながら取組を推進する初年次教育全学委員会についても、従来どおりその役割を担っていく。

また、本学の初年次教育に関する各種プログラムをさらに拡充することを目的として、財政支援期間終了後はこれらのプログラムのマニュアル化やトレーニングプログラムを充実化させる。これにより、これまで教育開発・学修支援センター所属教員を中心として実施していたこれらのプログラムを各学部の教員も担当できる体制が構築され、より多くの学生が大学生活に円滑に移行するための支援に取り組んでいく予定である。

2. 取組の全体像【1ページ以内】

● 取組概要

大学生活への適応、キャンパスライフ成功スキルの修得、異文化理解と学びの転換、を柱とした学生の大学生活全体の「成功」の支援を目的とした取組



～正課と正課外を有機的に結びつけた初年次教育～

<正課>

- ・APU入門・・・大学生活への適応、愛校心の形成、目標設定など
- ・新入生ワークショップⅠ・・・学習技法の修得など
- ・新入生ワークショップⅡ・・・異文化理解、協調・協働学習の促進など

<正課外>

- ・新入生オリエンテーション・・・大学生活への移行、アイデンティティの形成、関係構築など

● 取組の成果

◆APU入門

2009・2010年度APU入門受講生の自己評価において4点満点中3点以上の項目・・・他人の意見に耳を傾けることができるようになった、異文化の友達ができた、APUに入學してよかった、APUの一員としての意識がある、APUの学生であることに誇りを持つようになった、学習意欲がわいた、やる気が出てきた

→ 受講生が異文化理解やコミュニケーションの基礎を構築するとともに、APU生としてのアイデンティティを醸成し、大学生活に対して意欲が向上していることを示唆

◆新入生オリエンテーション改革

- ・学生の視点を取り入れた情報の精選
- ・新入生参加型ガイダンスの実施
- ・新入生が気軽に立ち寄り、大学生活についての質問ができる場の提供
- ・新入生同士が交流できる場の提供

→ 学生スタッフによるオリエンテーションを実施することにより初年次生の理解度・役立ち度が大幅にアップ(最大で改革前と比較して30ポイントの上昇)

◆初年次生を支援する各種取組において、上回生を活用することによって・・・

- ① 学生のニーズに即した学生支援を実現
- ② 上回生との関係構築(新入生にとってのロールモデル)
- ③ 上回生自身の成長と愛校心の醸成

◆取組の成果は、全学組織である“初年次教育全学委員会”において評価・検証を行い、次年度の取組に反映

● 今後の展望

- ・初年次教育の必要性について学内の理解を深め、全学的に取り組む風土の醸成
- ・初年次教育関連プログラムのマニュアル整備
- ・ピアラーダー育成(研修内容の体系化・効率化、マニュアル化、支援体制の構築)